

1935

むくみとしむ水

七月の半ば「これむくみといふ」

と思のむくみに着かつく

塩分のとりすぎた 注意しといへる

の責任者と言った

かしこまりました

とや及事 ども味つけはうすくする

何回かおねいし形本 たかく 同リこと

と言つてはとうろすを思

とくく 半年近くたつてしすつた

この味つけが よくする ^味ハルパー水

すててくれ

味つけが さいかろ大丈夫と思つた

ストヤの味つけが おまらんと出てい

これがあはば 本人の思うよう味になる

血を百八十近い

責任者 ^塩塩分のとりすぎがあるおとしれ

とや及事

白の及事もある

序、塩と とも行つてしすつた

足 ずつとむくみ ぼろし

よくなつたと思ふと 又むくむ 足の足

身やちやんは 疥癬をとりはらめて

手足は ずつとしむくむといふと 言うていた

それから何ヶ月もたつた

今日果はとまも

手と足しむくむといふのよ

とれくういじ しむくむからうら

これからずつと しむくむといふうしい

疥癬の創 け五年八月で終つてしまふ

一年たつと 一年しむくむといふ

よく手いふとけ づつとすのど

2023
9/28
28